

PRESSRELEASE

報道関係者各位

2021年11月01日
ひろさき芸術舞踊実行委員会

文化庁・スポーツ庁・観光庁「スポーツ文化ツーリズムアワード2021」 東北初！最高賞「スポーツ文化ツーリズム賞」に選ばれました！ 弘前城ダンス&パフォーマンスフェスティバル「SHIROFES.」



スポーツと文化資源を観光に結び付け、国内外の旅行者や地域の活力につながる取り組みに送られる「スポーツ文化ツーリズムアワード」。過去には「富士山ネイチャーツアーズ」や「日光国立公園マウンテンランニング大会」といった世界でも名が知られる場所を活用したイベントが受賞しています。過去には十和田市の「スポーツ流鏝馬大会」が文化庁官賞を受賞していますが、大賞となるスポーツ文化ツーリズム賞受賞は東北初となります。

「SHIROFES. (城フェス)」は弘前城本丸を舞台に、2016年より毎年開催している世界最大級のダンス&パフォーマンス複合フェスティバル。世界最高峰のダンスの世界大会やエクストリームスポーツ界トップアスリートによるステージ、津軽三味線、津軽笛、ねぶた囃子の生演奏、地元高校生書道部による書道パフォーマンス、eスポーツコンテンツや地元アーティストによる音楽ライブなど、幅広く充実した内容で開催しています。

■受賞のポイント①「伝統文化との融合」

若者の文化と弘前にある伝統文化の融合が評価の一因になっています。弘前城という観光資源の活用と道具立てとしての津軽の伝統芸能。五輪の正式競技にもなっているダンスといったスポーツ。両方の要素を持つ点が評価されました。

■受賞のポイント②「国内外からの参加者も」

2016年開催当初の大会参加者は主に東北からの参加者がほとんどで342人、海外からの参加者は6人でした。2019年の開催には海外からも来場があるほどに発展し、県外参加者は857人。うち海外からは108人もいました。

■受賞のポイント③「2億円以上の経済効果」

2016年開催当初の経済効果は3,630万円。来場者は5500人でしたが、4年後の開催には約9000人と増え、WEB・メディア広告換算費用も含めると2億2,300万円という経済効果を生み出しました。全国でも有数のイベントに発展しています。

■受賞のポイント④「ネットの生配信やSNSを使った発信」

情報の発信をオンライン中心で行っているという点と、イベント後もレポート動画などの再生回数が伸びて総再生回数は100万回を超え。コロナ後のイベント開催のモデルケースになっています。

■受賞のポイント⑤「世界に広がる将来性」

2020年はオンラインのみの開催。SNSを活用した予選形式にてダンスバトルを行ったところ、アメリカ・フランス・中国といった世界42カ国から1200人を越えるエントリー者がいた。

今回の受賞は「SHIROFES. 2019」とオンラインのみで開催した「SHIROFES. 2020」。地域と共同した4年間の実績とコロナ禍においても配信プラットフォームを生かして開催したことも評価されました。2021年は、イベント出演者のみ弘前に来てもらい、オンライン配信と組み合わせたハイブリット型で開催。参加者全員には抗原検査や食事までも徹底管理した宿泊施設・選手村の設置などを行いました。

今後の予定

受賞の発表は文化庁・スポーツ庁・観光庁ホームページで10月29日午後16時に公開されました。11月30日には東京で授賞式が行われ、ひろさき芸術舞踊実行委員会委員長の岩淵伸雄が出席し各長官より授与されます。

ひろさき芸術舞踊実行委員会

芸術舞踊に関する活動を青森に根付かせ、多くの人々に芸術舞踊に親しみ、理解を深めてもらうため2012（平成24）年に発足した市民団体。子どもたちに発表の場を作るという思いから始めた舞台公演「DREAMER」や「ダンスフェスティバル」「DANCE 交流文化祭」など弘前を中心に活動しています。

本リリースに関するお問い合わせ

TEL 0172(88)6499 担当 岩淵・秋元 FAX 0172(88)6499

Mail nobuo@sfs.limited